



【神からの一番大切な愛の命令】

聖書本文:ルカの福音書10章25-37節/ 暗唱:マルコの福音書12章30-31節

説教者:鄭南哲牧師

(Rev. Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん、コロナ感染が増えつつある中、一週間もみんなお元気でしたか。お変わりありませんか。願わくは始まった今週一週間も、今もなお我らと共におられる全能なる神の御手がみなさんの上にともにあり、日々の営みが守られ、祝福されますようにお祈り申し上げます！

＜本文の説明＞

ある律法の専門家がイエスを試みようとしてこう言いました。「先生。何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐ(自分のものとして受ける)ことができるでしょうか。」(25節) 関連の マタイの福音書22章36節では「先生。律法の中で、どの戒めが一番重要ですか。」という試しの質問でした。さっそく、26節でイエス様はその律法の専門家に言われました。「律法には何と書いてありますか。あなたはこう読んでいますか。」と問い返しました。律法の専門家は27節で「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい』とあります。」と答えました。

その答えを聞いたイエス様は28節に「あなたの答えは正しい(そのとおりです)。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」と確かめ、約束して下さいました。

律法の専門家の質問である“何をしたら永遠のいのちを得ることができるでしょうか。”を言い換えると“どうすれば、救われた神の子ども、神の民となれるのか。”という意味でしょう。実はこれは我らの信仰生活の中、一番大切なテーマであり、核心的な内容に当たるでしょう。すると、神はそうなるために、どうするべきだと教えて下さっているのでしょうか。

神の愛の命令(心、いのち、力を尽くし、つまり、すべてを尽くして神を愛し、同じように隣人を自身のように愛しなさい！)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！なぜ、神様は愛することを一番大切にしておられるでしょうか。神ご自身が愛なるお方であるからです。神は愛なり！キリスト教の核心は愛です。聖書のテーマを一言で、まとめられると愛なのです！

ヨハネの手紙第一4章8節によると私たちが信じている神様こそ、まことの愛のお方だからです。

「愛のない者に神は知りません。なぜなら神は愛だからです。9神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに命を得させてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。10私たちが神を愛したのではなく、神が私たちに愛し、私たちの罪のために、なだめの捧げ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

愛は神様の本質であって、神様がもっておられる属性であります。「愛というのは神様がなされるたくさんの御業の一つではなく、神様のなされる雄一の御業です。」だとある神学者が言われたように、神様は愛するために働いておられるお方です。神様はご自分の愛を表す場所として、この世と万物をお造りになり、愛を表す対象として人間を創造されました。

* ここで愛という言葉は原語ギリシャ語の‘アガペ’もしくは‘アガパオ’という単語が使われています。ここでアガペの愛というは普通人間の快楽的、感情的なエロスの愛や、ピレアの友情くらいの程度愛とは違います。アガペの愛は‘一方的に与える愛・犠牲的な愛・条件を超える無条件的な愛・自己中心的ではなく、徹底的に相手中心・相手の有益を求める愛’を意味します。私たちは実際にイエスを信じて救われたとき、この神の愛に触れられ、今もなお神様の愛を体験しているのです。

神は愛です。この神の愛は十字架のイエス・キリストを通して一番よく表されました。なぜなら、まず、神ご自身が心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし、すべてを尽くして罪人である我らを愛して下さいた神の最高の愛が十字架の贖いと通して我らにあらわされたからです。ですから、イエスキリストを信じ、神を愛するすべての者たちには、御霊によって神の愛は私たちに植えられました。我々は神との関係、神を、イエスキリストを愛する関係を保つことで、また他の人たちをも愛することが出来ます。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。(ローマ人への手紙5章8節)」

* 神の愛の命令の意味には、関係の大切さを含めています！愛することは一人ではできません。お互いに関係によって愛し合ううちに愛の実が結ばれるように許して下さいます。

ですから、神様との関係、隣人との関係がとても大切で重要であることが分かります。我々の人生は真の愛を学んで行く課

程です。だれからでしょうか。まず、順番的にはまず、神様からです。神の愛を受けた者こそ、神を愛し、他の人をも愛することが出来るでしょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！

信仰生活の中で何が一番大切だと覚えているでしょうか。今日の本文、そして、すでに命の道の学びを通して、みなさんが存じのように、“神様と隣人との愛の関係を保ちながら生きること”だと教えまとめて下さっています。今日の本文27節でイエス様はこう言われました。「『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい』、また『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』とあります。」です。神への愛の関係、隣人への愛の関係を保つ、これがイエス様が強調された神様が信じる者たちに与えて下さった一番の戒めであり、律法だと教えて下さいました。

愛するという意味は何でしょうか。それは関係の大切さを教えて下さっています。つまり、神との関係、隣人との関係が大切で、重要であるのだと教えて下さっています。信仰の生活の中で、表や形ではなく、神様とどんな関係を保っているのか、神とまったく関係のない生き方をしているのではないのか、隣人とどんな関係を保っているのかが大切であります。どんな関係を神は望んでおられるでしょうか。神と自分ではない隣人を、心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして愛しなさいと命じて下さっています。

❶「心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、神を愛しなさい！」と命じて下さっています。

私は愛が持っている本能的な二つで説明できると思います。

一つは、愛すると一緒にいくなり、そしてもう一つは愛する人のためには惜しまず何でもあげたくなることではないでしょうか。今日の本文の27節に戻り、「すると彼は答えた。『あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』」これは旧約の申命記6章5節の箇所をそのまま引用した御言葉でした。

大切なのはこの御言葉はイスラエルの民が主の宮で礼拝をささげた時、信仰の告白として使われた御言葉(申命記6:4-9、11:13-21、民数記15:37-41)の一箇所として、ヘブル語で“シェマ(שמע Shema)”だとも言われました。

ユダヤ人たちは御言葉を羊皮紙(ようひし)に記録し、樽(たる)に入れて門柱につけましたが、その樽を“メジュジャ(Mezuza h)”とも言い、出入りするたびにその樽を触りながら“主が私の出入りを今からとこしえまで守られますように！”と祈り、メジュジャに口づけながら神の御言葉に対する敬意を表しました。

それだけではなく、ユダヤ人の男たちは祈る時に、羊皮紙にシェマを記録し、小さいマッチ箱のような皮の箱に入れて長い皮のひもでひたいと左腕に結んで祈りました。これを“経文(きょうもん)”とも言い、“祈りのひも”という意味の“テピリム”とも言います。ユダヤ人たちがこれほど信仰告白、祈りと御言葉を大切にするのは神を全人格で愛するという表現だったそうです。

するとどうすれば、人が全人格をもって神を愛する関係を保つことはできるでしょうか。

イザヤ書43章21節「わたしのためにわたしが形作ったこの民は、わたしの栄誉を宣べ伝える。」

イザヤ書43章7節には「わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造した。これを形造り、これを創造した。」

ここで“神を賛美し、神の栄光のため”というのは一言で言うと、“礼拝”です。

ですから、心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして神を愛するということを一番説明できる単語が“礼拝”なので“神に御言葉と祈りと賛美をもって心から神の御名を崇め、礼拝をささげこそ、全人格をもって神を愛することである”と言えます。

ですから、我らも何より神を愛するというなら、礼拝を大切に最優先に守り、ささげなければなりません。信仰生活において礼拝より大切なはないので、礼拝に我々は心を尽くし、力を尽くし、知性を尽くさなければなりません。まことに神を愛するのであれば、信仰告白を持って、神に礼拝することに対して妥協してはいけません。そして、どんな約束よりも神に礼拝をささげる主日を敬虔に守らなければなりません。日曜日一日を完全に聖別しておきましょう。主の教会に出て、神様に礼拝し、信仰の家族と交わりし、主の教会のために奉仕し、一週間の生活を振り返り、新しい一週間のために祈り、与えられる御言葉を黙想する時間となるように心かけましょう。

神様は礼拝をささげる人を大切にし、探すだけではなく、礼拝をささげる者とその家庭に必ず、すばらしく祝福して下さいます。その例として第二サムエル記6章にダビデが王になった後、エリ祭司の時、ペリシテに奪われましたが、戻って来てユダのバアラにある神の箱(契約の箱)をダビデのエルサレムのお城に移そうとしました。大切なのは神の箱は横125cm、縦75cm、高さ75cmである小さい箱なのに、この箱を動かすためにイスラエルで選ばれた三万人とダビデ王と一緒にいたすべての

人々を総動員させました。要するに、国家的な大行事だったため、多くのイスラエルの人々はほとんど、それを知っていて、神の箱が移されるのを見たと思います。しかし、ダビデ王は背負って行くべき神の箱をどうして新しい荷車(にぐるま)に乗せて、運ぼうとしたか分かりませんが、神の箱を乗せた荷車がナコンの打ち場まで来た時、牛が神の箱を乗せた車をひっくりかえしそうになったため、ウザという人がそれをおさえるために神の箱に手を伸ばしてつかんだら、神の怒りがウザに燃え上がって、その過ちのために、彼をその場で打たれ、神の箱の傍(かたわ)らで死んでしまいました(7節)。

それを見た激しく驚き恐れていたダビデ王は、神の箱をエルサレムのお城に運ぶのをやめて、ガテ人オベデ・エドムという人の家に回しました(10節)。

確かに、オベデ・エドムという人もウザの死を目撃したはずでしたから、当然恐れてははずでしょう。しかし、王のなさることなので、恐れをもって受け入れたかも知れません。ところが、大事なのは「主の箱はガテ人オベデ・エドムの家に三か月とどまった。主はオベデ・エドムと彼の全家を祝福された(第二サムエル6:11)」と書かれています。

ここで「主の箱はガテ人オベデ・エドムの家に三ヶ月とどまった!」というのはオベデ・エドムの家で毎日朝、夜、神にいけにえがささげ、3ヵ月神の契約の箱がとどまっているうちに、神に礼拝し続けていたと意味が含まれているわけであります。神様は毎日ささげるオベデ・エドムの家に祝福を与えて下さいました。12節に「主が神の箱のことで、オベデ・エドムの家と彼に属するすべての者を祝福された」。生きておられる神の臨在の中で神を恐れ見上げつつ、神の御言葉を重んじる信仰と姿勢を保って、礼拝をささげた時、神様はそのウザの家庭に今まででもなかった大なる祝福を与えた下さったことが分かります。ですから、神に礼拝と御言葉を大切に重んじることがみなさんとみんさんの家が祝福される源であることを明確に教えて下さっているのではありませんか。

これをイスラエルの歴史家であったヨセプス(Flavius Josephus)は「ユダヤ人の民族の歴史を見るとすでに、ユダヤ人歴史から消えるはずなのに、消えるところか、むしろさらなる影響を与えている。その理由に、ユダヤ人たちは主の日(安息日)を徹底的に守ったが、ユダヤ人が主の日(安息日)を守ったか、主の日(安息日)がユダヤ人たちを守ったかは分からない。」と指摘しました。

これを別の表現で言うど「毎週主の日、神様に真心をもって礼拝するその人と家、その民族は決して滅ぼされない。」という歴史的な教訓なのです。ですから、心から神を愛する者たちに表される証拠として、神様に礼拝することをまず優先に大切に守ることにより、今もなお我らとともにおられる神の豊かな祝福を頂けるみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。

②「隣人を自分のように愛しなさい!」と命じて下さっています。

そして今日の本文の27節でイエス様は、神を愛する関係と同じように「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい!」と命じられました。神様の御前で自分のすべてを尽くし心から神様を愛する人は、隣人はどれだけ自分自身のように愛しているのかの行いを通してあらわされると教えて下さっていることを忘れてはいけません!

もう一度、今日の本文に戻り、今日イエス様に訪ねて来たこの律法の専門家という人は、まさに神様の律法に関して、だれよりもたくさんの知識を持って、また神の律法の通りに熱心に従って行っていた神様にいけにえをささげていた者でしたが、隣人を愛することに問題がありました! 彼は頭では、知識としては、神の一番大切なこと、人が守り行すべきことを知っていたのですが、行ってなかったことにイエス様は指摘して下さいます。

神様をまことに愛し、その愛の関係を保ち、神に心から礼拝を捧げる人は、当然、ほかの人をも自身のように愛さなければなりません。特に今日の本文の律法の専門家を対象で適用して見れば、神はなぜ、あなたの隣人をあなた自身のように愛するように命じられたでしょうか。神を愛すると言っている人々はともすれば、自分だけがいつも神の前で正しいと思い込んでしまい、高慢になってむしろ自分の信仰と奉仕によってほかの人を責め、判断してしまいやすいからです。

本文、28節「イエス言われた。「あなたの答えは正しい。それを実行しなさい。そうすれば、いのちを得ます。」」

この律法の教師は自分の隣人がだれなのかすら知らず、ただ自分のことにしか考えず、思わない律法的な生活をしたからです。これはつまり、自分だけの信仰生活をしたわけです。もし、私たちも今まで熱心に律法に従っているうちに、自己義、自分の正しさ、きよさの生活だけにしか関心がなかったように見えます。

29節「しかし彼は、自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。「では、私の隣人とはだれですか。」」

しかし、これは神が、聖書が教えて下さっている本当の信仰の正しい姿勢ではありません。

(わたしの隣人はだれなのか(自己中心)ではなく、あなたは誰の隣人になっているのか(相手中心)が大切な観点です！)
イエス様は自分が愛すべき隣人すら分らない、律法の専門家に愛すべき隣人がだれであるかを30節から具体的に教えて下さいました。

ある人がエルサレムからエリコへ下る道で強盗に襲われて、殴りつけられ、半殺しされ捨てられました。たまたま一人の祭司が彼の横を通りましたが、通り過ぎて行きました。もう一人のレビ人も彼を見ると、反対側を通り過ぎて行きました。ところが、当時ユダヤ人たちから蔑まれ、軽蔑されていたあるサマリアの人が旅の途中、彼を見てはかわいそうに思い、近寄って、傷をみてすぐオリーブ油とぶどう酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って、介抱し続けた。(33-34節)

そして、次の日、宿屋の主人にデナリ二枚を取り出し、「介抱してあげて下さい。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。(35節)」と言います。イエス様はこのたとえ話を終えた後、律法の専門家に「この三人の中でだれが、強盗に襲われた人真の隣人になったと思いますか。」と質問し、これに対して律法の専門家は当たり前のように「そりゃ、その人にあわれみぶかい行いをした人です(37節)」と答えました。これにイエス様はその律法の専門家に「あなたも行つて、同じようにしなさい。」と言われました。(ここで、彼はわたしの隣人はだれなのか(自己中心)と質問しましたが、イエス様はあ誰の隣人になっているのか(相手中心)に視点を変えて下さっています！)

みなさんは、今も自分の隣人はだれなのかと考えているならば、まず、その考えを変える必要があります！

わたしは今誰の隣人になってあげているのかにです！！

わたしの周りに困っている人、助けが必要な特別なそのような人はいないと思い込んでいらっしゃる方々はいませんか。

それはみなさんが関心と注意を払いながら、周りの人々をよく見てないだけです！！

我らの周りに、我らの教会の中だけでも、いくらみなさんの関心と助けが必要な方々が常にあります。

愛は行いが大切です！真の愛は心だけではなく、行い、実行するときこそ、あらわされ、全うされることを忘れないで下さい！

ルカの福音書6章38節「与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前良く量ってふところに入れてもらえます。あなたがたが量るその秤(はかり)で、あなたがたも量り返してもらるからです。」

ヤコブの手紙1章27節「父なる神の御前でよく汚れのない宗教とは、孤児ややもめたちが困っているときに世話をし、この世の汚れに染まらないよう自分を守ることです。」

創世記2章18節で「また、神である主は言われました。「人がひとりでいるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」これはただ夫婦の間の女性の役割だけを言われたものではありません。もっと拡大して理解すると、神様が人を創造された目的は人を助け手、つまり、ほかの人に仕えるためなのです。

イエス様ご自身も、マルコの福音書10章45節で「人の子も、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来たのです。」と言われたのです。第一コリント人への手紙13章3節で「たえ私が持っている物のすべてを分け与えても、たとえ私のからだを引き渡して誇ることになっても、愛がなければ、何の役にも立ちません。」これは、どんなに奉仕を熱心にくさんしても、愛する心からやらなければ、何の益にもならないという意味です。

ヨハネの手紙第一4章10—12節によると「10私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの捧げ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。12いまだかつて神を見た者はいません。私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまり、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。」

ですから、神様を愛し、イエス様を信じる我々も隣の人をも愛し、助けなければなりません。神様は今日神様を愛する者たちにまた「あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい！」と命じて下さいました。

とっても残念なのは、社会だけではなく、教会で信仰の生活の中ですら、あまりにも個人主義と自己中心になっているため、ほかの人にはぜんぜん関心がない時代になっているのではありませんか。ただ、自分や自分の家庭や自分の子供だけ祝福されればという思いが主の教会の中にも沁みられ、我々を支配しようとしています。それは、まさに神を愛いそうとすることだけに偏り、同じように大切な隣人をも愛しなさいという大切な神の命令を見逃してしまい、偏ってしまっている信仰の状態になります。

このサマリア人のように真の隣人への愛の行動には必ず自己犠牲が伴われるべきだと信じます。

本文の34-35節で「近寄って傷にオリーブ油とぶどう酒を注いで、包帯(ほうたい)をし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行って介抱(介護)した。35次の日、彼はデナリ二枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。「介抱(かいほう)してあげて下さい。もっと費用がかかったら、私が帰りに払います。」とかかれています。

ここで、我々が共に覚えるべきことは、強盗に襲われた人を助けることは愛を行うことであって、愛を行うことには自分の時間も努力も、エネルギーも、お金も必要であったことが分かります。サマリア人は強盗に襲われた人のために自分の持っていた油とぶどう酒を使い、そして、次の日、宿屋の主人にデナリ二枚を渡しなが、介抱を頼み、もっと費用がかかるなら帰りに払うと言いました。ここで、サマリア人があげたデナリ二枚はいくらぐらいでしょうか。マタイの福音書20章2節によると、デナリ一つは労働者の一日の賃金なので、そんなには大きい金額ではないと思います。しかし、当時の一日宿泊代は1/32デナリだったのに、二つのデナリとはつまり約二ヶ月の宿泊代くらい分だったことが分かります。

大切なのは隣人への真の愛とはある観念や感情、ただ心ではなく、自分にあるものを用いて犠牲にし、分け与えることであります。サマリア人の犠牲と愛の行いがなかったなら、強盗に襲われた人はそのまま死んだと思います。このように今日もみなさんの犠牲と愛の行いがなければ、みなさんの周りにいる多くの人々は我らを通して、キリストの愛、神の愛を我らが行い、示し、分け与えなければ、一生神の愛を知ること、体験することも出来ず、神の永遠の命を得ることも一生知ること、信じることもできないのではありませんか。神を心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くし全てを尽くして愛する人は、隣の人にもいつも関心を持って、自分の心から、いのちと力を尽くし、愛の行いをします。

みなさんが本当に今神を愛しているかどうかは、みなさんの隣人にどのようなふるまいと姿勢、行いをしているか見れば、分かりやすくなると信じます。みなさんはいかがでしょうか。

イギリスの福音主義の指導者であるジョンストット(John Stott)牧師は“隣にいる人に関心のない礼拝は正しい礼拝ではない。”と言いました。

神の愛を体験したら、私たちは誰かの隣人となり、この愛を表さなければなりません。それは私たちがいつも会っている人々に表さなければならないでしょう。そこには自分が愛せる人たちだけではなく、愛せない人たちをも含まれています。良きサマリア人のように愛の対象となる隣人には、どんな区別も、差別もあってはなりません！

そして、口先(くちさき)だけの愛は意味がありません。愛において大切なのは愛を行いを通して表しているのかにあります。ヨハネの手紙第一4章の最後の節21節にもこのように書いてあります。「神を愛する者は、兄弟も愛すべきです。私たちはこの命令を神から受けています。」これが結論です。神を愛しているなら、そして神の愛を体験したなら、私たちは自分の周りにいる人々の関係の中で具体的な行いを通してその神の愛を表すことが出来るでしょう。

メッセージをまとめたいと思います。一番大切な神の愛の命令は知っている程度、分かっているところで止まってはいけません！この神の愛の命令は、我らが実行し行わなければ、守られたと決して神に見なされません！全てを尽くして神様を愛する関係を保つことは、神のご臨在の中で御前に出て礼拝する実行と行い！この礼拝こそ、人が全てを尽くして、神を愛し、御前に我らの身も、心も人生の全てを委ね、捧げ、新たに献身する場があります。そして、そのように心から神を愛し、礼拝する者は、周りの人々の隣人となってあげて、自分のように愛するため、感心を持って顧みて、共にしようとし、助けが必要なら、何でも惜しまずに分け与えようとその愛の行う！

この二つの関係を保ち、行い続けることが一番大切な神からの命令であることを今週も、今年も、これから一生忘れないように共にこころがけましょう。そして、ともに今日から、ためらわず、すぐ神に、隣人に実行して歩まれる全クリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族となり、それを通して神の約束されたすべての祝福と恵みを実際頂けるみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！！